

第5回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2020年8月31日(月) 19時~21時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン研修
- ◇参加者 **【現職教員等】**
奈良：春日、樋口、島、中澤哲也、中澤敦子、山方、浅井、圓山、小谷、川崎、
柚木、中村(朱雀)、中村(都跡)、新宮、
大牟田市：高倉(大牟田市教委)、柴田、石橋、島
その他：河野(大分大学)
【学生】：西條、足立、嶋田、福井、谷垣
【奈良教育大学】：中澤、大西、太田、杉山 計28名

◇内容

1. ESD実践の活性化を志向した校内研修：山方先生

- ・目標を明確しないと、この授業や単元で何を身に付けさせるか明確にしないと「活動あって学びなし」「授業の脱線になりかねない」
- ・今の日本の評価の立場は、目標準拠評価
「目標を設定し、そこにどの程度達成したかを評価する」という立場。
- ・目標を明確にするから、系統性を考えることができるし評価することができる。

【研究上の問い】

(1) 校内の総合・生活科授業が活性化する校内研修とはどうすればいいのか

本研究における活性化とは、教師が系統性を確保しつつ、自律的に単元開発・実践ができること

①単元開発に関して

○教師一人一人が自律的に授業開発できる機会が確保されている

▼系統性も考えているのか、開発したということは何かを廃止したこと それはよかったのか

②継続しづらいESD実践

○素晴らしい実践は存在している 大会時は色々考えられている

▼教員の異動で継続できなくなる

開発の経緯・熱意が伝わってない 大会が終わると力が入れられなくなる

③コンテンツ・ベースによる前年踏襲

○ある程度の質は確保しやすく、見通しがつきやすい 保護者・地域からの批判も少ない

▼担任の思いや工夫は反映しづらい 子どもの実態に即しているか

④計画→指導→評価→改善のサイクルをまわしづらい

○単元開発をすることができる教師は、自由にのびのびと単元開発ができる。

▼系統性は考えられているのか

(2) 残したいことと改善したいこと

【残したいこと】

- ・教師一人一人がたん元開発できる機会を確保したい
- ・大会に際して考えたことは今後も継続していきたい
- ・見通しが持てるようにしたい

【改善したいこと】

- ・系統性の確保
- ・カリキュラムの評価
- ・コンピテンシーへの意見

これを改善するためには、目標の明確化 内容志向から目標志向へ

→ コンピテンシーを意識した目標へ

	①切り口	②2019年度の主な学習内容	③目指す子ども像
1年			
2年			
3年			
4年			
5年			

①系統性の確保

②カリキュラム評価

③コンピテンシーへの着目

※考えられる課題

・コンピテンシーの評価は、教師の「目」に頼らざるを得ないので、やはり教員の力量形成が重要になってくる。

- ・現職：実践しやすそうです！言葉は多少難しいですが…。コンピテンシー=ESDになっていくといいなー。
- ・西條秀哉：実践していく上では、まずコンテンツから考えたほうが考えやすい。コンテンツから深めたほうがデータを残しやすく共有しやすい。コンテンツからコンピテンシーにつなげていくポイントが大事なのでは？子どもに学ばせたい観点はとても参考になった
- ・総合はコンピテンシーベースにするよりは、探求する楽しさにこだわるべきでは。
- 山方先生：探究する楽しさを感じることもコンピテンシーだと捉えている
- ・太田先生：・発表内容は他教科でも通用しますか？今回のように、実践の土台としてのルールを用意されているところがよいです。「何ができるようになるか」は、生活・総合でもしますか。目指す子ども像とESDで育てたい資質・能力との整合性は？
- 山方先生：これまではESDを特に意識したものではなかったので考えていきたい
- ・中澤哲也先生：新採の立場だと内容、目標が明確だとわかりやすく、取り組みやすい。学年の成長によって合わせるのも大切。その年のクラスの子どもたちが興味関心もつような内容にすることも必要では。あくまでも内容は自分で考えたいこともあるので柔軟に！教員の個性も大事。
- 山方先生：授業開発できる力量形成は重要
- ・春日先生：学習内容の型があるのはわかりやすいと思いました。年度によって偏りがある場合もあるので、決まっていると計画を立てやすいという意見が出ました。学生さんもこんな学校に行きたいと言っていました。大牟田では年間カリキュラムがあるそうです。
- ・柚木先生：ESDは楽しい、そして便利、というイメージを持って、ひとつつチャレンジ、のつもりでやってみたい。単調なルーティンにならないために利用できればよい。

→ 表にまとめるのは、カリキュラム評価方法として優れている。この後の成果を教えてください。
面白く探究できる教材開発の方法についての研修もあわせてやればと思いました。

2. 「クッキングはじめの一步」 小学5年生家庭科（樋口先生）

- ・コロナ禍の中では調理実習ができない。オンラインを活用する。
- ・ゆで卵の調理実習
- ・アレルギーのある子にも対応した学習にする。
- ・調理後の排出されたゴミについても学ばせたい

・昔の人はごみを減らそう、環境にやさしくしようと思ってごみを減らしてたわけではないんじゃないかなあ～

・使ったあとのごみをそれぞれ写真でとって家庭ごとにシェアすることもいいんじゃないかな。

・低温調理もおもしろい！一方、家庭科の調理実習を喜んでいる子たちだと思うので、ごみの話ばかりすると喜びがはんげんするかも…。

・どんな子どもを目標とするのか、を定めて授業計画を組み立てるといいと思います。今のままだと料理？時短？ごみの削減？と求めることが多く子どもにあまり残らない可能性も。

・コロナ禍に合った調理実習や料理の在り方を探究してみたら面白そう。

・なべ帽子は手間が掛かる。エコと手間の折り合いをどうつけるか、またデメリットも考えさせても面白い。

・単元の入口や実習を面白くできないか。（究極のエコ料理作り？卵一個で何が作られるか？）

・実習を通した子どもの関心は「ゴミ」より「おいしさ」では？「おいしさ」から入って、発問①に戻って、「ゴミがたくさん出た」ということに気づく単元の流れはどうでしょう？

・ごみの量は質量的なもので見ると感じやすいように思う

・調理実習はまず楽しいもの。「おどろき」「発見」を大事にして、そこから学習を広げていきたい。

・単元の構想図がぶつ切りになっているような気がする。「家族の調理の工夫」を大事にしているようだから、そこに単元を貫く問いに設定して、実践をつなぐと良いのでは？

・先生が調理をやってみた実体験を子どもたちに伝えられたらよいのではないかな。

・オンラインだからせつかなので家庭を巻き込もうという意図はおもしろいと思いました。

・ゴミの量などを比較するなど楽しそうです。プラゴミの量が多いことに気がつくことも大事。

・調理とエコクッキングをわけて、調理方法→エコの順で学習すると、よりエコについて学べるのではないのでしょうか

・ごみ問題を全面に出すのではなく、味や見た目、安全、栄養、などの項目の中に環境面(ごみの削減)をいれて、気付きから調理とは別の単元？授業？の導入で活用することもできそう、という意見も出ました

3. 「戦争ってどうしていけないことなの？」 小学6年生総合的な学習（足立君）

中心発問「戦争ってどうしていけないことなの？」に対して、自分なりの考えを持ち発言できる児童の育成を目指したい。

- ・松の木の導入は弱いので。地域にある兵隊さんのお墓を調べてはどうか？横面には戦死した場所と年齢が書かれているので、空襲がなかったから先生がなかったのではなく、多くの人が戦争に巻き込まれていたのが実感としてわかるよ。
- ・ダメとわかっているながら、今もなぜ戦争がなくなるのかという問いの方がよいのでは。
- ・身近なところに戦争の跡があるという導入がよい。→子どもたちに印象の残る導入を探していきたい。(例：戦時中に鹿が79頭まで減ったこと)
- ・指導にするにあたり、想定する子どもの答えは？ 指導者側が戦争はなぜいけないかをどう答えるか？
- ・戦争はダメと分かっているけど、起きている。→現実との乖離から「ダメと分かっている戦争がなんで戦争は起きるのだろう。」と考えても良いのではないか。
- ・なぜ、戦争はするの？なぜ、戦争はしたの？ということに対して考えても良いのではないか。
- ・「戦争はなぜいけない」小学生はみんな言える。でも抽象的。抽象的でなく具体的に語れるようになることを目標にするとよい。
- ・最後、平和をアピール、だけじゃなくて、具体的にどんな姿になってほしい？
- ・「自分ごとでない」と「現代ごとでない」もある。ここから抜け出せる実践にしたい。
- ・「戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました」は6年生みんな言える。ここで満足しちゃう。
- ・「松の木」では弱い…？自分と年の近い子どもの写真などは？
- ・足立くんが同世代の大学生から刺激されたように、小学生も同世代の子どもたちの戦争・平和に対する想いに触れさせると良いのでは？(大牟田は長崎修学旅行を通して、長崎の小学生と相互の交流をしている)
- ・広島のお墓には、「原爆死」という死因が書かれたお墓がたくさんあります。年齢も様々で、せまるものがあります。奈良のお墓には、「レイテ島」とか激戦地が書かれているお墓も多いです。
- ・戦争を自分事としてとらえるために自分の地域のことから入る導入がよかったです。また、身近な人の生き方などのインプットがきちんとあれば、全体の流れもこの形でいいのではないかという意見が出ました。
- ・総合の時間なので、人と交流させたいという思いがある。戦争を体験した人が減りつつある中で、戦争を語り次いでいこうとする人たちに会わせることなど、今後考えていく必要がある。戦争はダメだとわかっているのになぜ続けるかを考えることで、現在の平和について考えることができるのではないか。

太田先生よりアドバイス

○戦争はどうしていけないのかに対して、○○さん(学び手にとって大切な人)が△△だったからと、具体的に話ができるようになってほしい

○対立する価値観にどう説得するのか、対立する価値観があることを念頭に授業を考えるともっと深みがでるのでは。

次回は9月24日(木)です。大牟田市の先生方からの提案もあるかもしれません。